

東京2020+1

パラ連携観戦の桜修館中等校長「教育の機会与えたかった」 生徒からも興奮や感動の声 /東京

東京

毎日新聞 2021/8/27 地方版 有料記事 499文字



桜修館中等教育学校の石崎規生校長＝目黒区の同校で

東京パラリンピックで小中高生らが学校単位で参加する「学校連携観戦プログラム」。初日の25日に参加した桜修館中等教育学校（目黒区）の石崎規生校長が取材に応じ、「教育の機会を与えたいと考えた」と説明した。

同校の生徒42人は国立代々木競技場で車いすラグビーを観戦した。移動は専用バスを使用し、観客席では生徒同士が3席ずつ空けて座り、手をたたくなどして応援した。

終了後、生徒から「試合の雰囲気を生で体感できてとても興奮した」「車椅子がぶつかり合う音の迫力が衝撃的だった」などのコメントが寄せられた。

石崎校長は「生徒の声を聞くと、それなりの意義はあると感じる」と話し、「観戦が行われる以上は教育の機会を与えたいと考えた」と説明した。

一方、混乱もあった。23日夜に都教委から「全員PCR検査を受けてほしい」と通知があり、24日に急きょ検査を実施。都合が合わなかった生徒らが参加を取りやめ、人数は半数以下に減った。石崎校長は「現場は大変だった」と振り返る。都教委は現在、検査は希望者のみとしている。

都教委などによると、都内で25日に学校連携観戦に参加した生徒らは308人だった。【竹内麻子】